

学芸員という資格  
—後輩の皆様へ—

江戸川区郷土資料室

小川 滋子

112期哲 115期博前史



江戸川区教育委員会事務局生涯学習課・文化財係の小川です。2007年3月に修士課程を卒業し、同年4月1日より非常勤職員として勤務しております。青木豊教授より「115期は現場に出た卒業生としては現在最若年年度であるのだから、後輩に何か就職に関する話や経歴・現場の紹介を」とのお話を頂戴しましてこのたび寄稿させていただく次第となりました。ですが、若輩者なうえに現場経験もさほどございません。後輩の皆様の何かお役に立てれば…という観点で「職場の紹介」と「後輩の皆様への助言」という二点のみをお話させていただきたいと思います。

先ほども申し上げました私の所属先、江戸川区郷土資料室は区の教育研究所管轄という前身を経て、現在は教育委員会事務局生涯学習課・文化財係が運営をしております。また、施設は独立館ではなく区の複合文化施設の一角に位置しておりますので来館者は様々な年齢層に亘ります。今後は展示替えを行う、ボランティアスタッフを含めた教育普及活動を充実させる等の準備・活動が予定されておりますし、研究室在籍中に得たものを改装後の博物館プログラムに活かす機会があれば…とも思っておりますので、当館が再開館いたします折には、皆様お誘い合わせのうえどうぞ江戸川区郷土資料室へお越し下さいませ（現在、耐震強度補強工事の予定のため閉館中、2008年度夏までにリニューアル予定）。

ちなみに私が担当しておりますのは、郷土資料室および文化財係が所有・収蔵しております資料の現況調査とデータベース化のための基礎情報収集（確認）です。周りの方々のお知恵を拝借しながら調査・写真撮影等を進めておまして、調査後は電子データベースとしての活用を目指しております。

後輩の皆様へお知らせしておきたいのは、第一に仕事内容は自身の専門分野に関する業務ばかりではないということ、第二には、

学芸員には社交性が求められる場合が多々あるということ、以上の二点に集約されます。私の勤務状況から申し上げまして、実際、本当に不特定多数の人と接する職場であると言って良いと思いません。学校・ボランティアの関係各所とのお付き合いには種々のこまめな連絡が欠かせませんし、レファレンスに来室される方の希望も様々です。こうした環境で「専門は～です」、と専門領域だけに携わるといふわけには当然参りません。

私の経験を総括しますと、現場で学芸員にまず求められているのは、館収蔵資料や対象地域に関する幅広い知識であり、資料の包装を含む資料の取り扱い（基礎から応用まで全般）に関する実技であるように思われるのです。そして、地方自治体運営の博物館・博物館相当施設は少なからず同様の環境下にあるといっても良いかもしれません。もちろん、学芸員資格保有者が専門知識を求められるのは自然ですし、個人が専門知識豊富であることはもとより重要なことではあるのですが、専門知識のみではやっていけない局面は数多くあるということを知っておいていただけたら、と思うのです。

そのためにゼミや勉強会、研究室といった場での先生方、諸先輩方、同期生、友人等々とのお付き合いは、後輩の皆様にとって良い社交・実践の場になると思います。何より、現場で実務にあたっていらっしゃる諸先輩方とお会いできる貴重な場でありまして、私自身も社会に出る前に良い経験をさせていただいたと思ひ、本当に感謝しております。学生時代に御縁のできた多くの方々とのお付き合いはそのまま社会に出た後にも大切な関係として続き、実務にまた個人的に活かしてゆける事柄も多くあるのではないのでしょうか。

これまで私が申し上げてきたことなど周知のことばかりかとは思いますが、学問として博物館を研究することと現場で専門家として勤務することの両立は本当に難しく、私は到底両立できていません。後輩の皆様には私の経験を教訓にして是非、研究と職業とを両立させていただきたいと心から願っておりますし、私に何かお手伝いできることがございましたらご一報下されば、と思っております。乱文にてたいへん失礼いたしました。以上の文章を以て後輩の皆様へのエールに代えさせていただきます。

